

日本自動車連盟（JAF）では、信号機のない横断歩道で歩行者がいる場合に一時停止しない車が多いという実態を把握すべく、2016年から全国で実態調査を行っています。

この度公表された2022年の調査結果によれば、歩行者が横断歩道を渡ろうとしている場面で一時停止した車の割合は全国で39.8%でした。

前年からは9.2ポイントの向上となりましたが、まだ約6割のクルマは法令を遵守していないこととなります（※）。

※道路交通法第38条では「横断歩道等における歩行者等の優先」が規定され、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合には一時停止をし、その進行を妨げてはいけないことになっています。

都道府県別にみると、長野県が82.9%で前年に続きトップをキープしています。それに次ぐのが64.7%の兵庫県。

最下位は沖縄県の20.9%で、前年から10.2ポイントも低下してしまいました。

因みに前年の最下位は岡山県（10.3%）でしたが、今年は49.0%までアップし全国平均を上回りました。

ここ数年の同調査の結果をみると、最下位にランクされた県では翌年は大きく数値が向上しています。

クルマが主要交通手段であり、尚且つ県外からの観光客ドライバーが多い沖縄県において、今後どのような対策が施され、どこまで改善されるか注目です。

読者のみなさんに所縁のある都道府県の状況は如何でしょうか。

当調査結果の発表内容は、以下 URL よりご覧になれます。

<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/library/survey-report/2022-crosswalk>

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

---

▼SNSでもメッセージを発信しています。

ツイッター <https://twitter.com/jidousyakyouiku>

フェイスブック <https://www.facebook.com/jaef2019/>